

# ふるさと奥尻通信

平成26年11月28日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

中学3年生、高校3年生のみなさん、楽しい季節は終わりました。さあ、受験のシーズンです。年が明ければ試験は目の前、寒さにめげず勉学に勤しみ、明るい春を迎えましょう。

## 特集 奥尻高校開校物語

現在、奥尻高等学校は赤石地区の小高い山の上に建ち、奥尻地域の重要な学府として、生徒らが研さんに励んでいます。同校は間もなく創立40周年を迎えますが、その生い立ちを調べますと、離島ならではの苦労があったことが判ります。

同校は、昭和50年に北海道江差高等学校奥尻分校として開校しましたが、それまで島内にて高等教育を受けるには、昭和34年に始まった札幌南高等学校の通信課程を利用していました。同42年からは地方指導員が置かれ、同49年時点で有朋高等学校(南校より独立)在籍数75名、卒業生46名を数えるほどまで高等教育への需要が高まっていました。

島内に高校がない時代は、進学者は皆島外の学校へ向かい、主には対岸の江差高等学校や函館市内の公立、私立校へ入学しました。この場合、入学の前後で交通費や滞在費がかかるのは言うまでもありませんが、離島故に船便欠航の場合は数日間の船待ちをせねばならず、本人や家族にとって大きな負担がありました。こうした地理的不利により、進学率も他地域に比べ低い現状にありました。



校章 昭和51年制定



初代校舎(一部は現 町民センター)

昭和40年代中頃に江差高へ進学したとある島民の例では、月12,000円の仕送りで寄宿舎代に10,500円、残りが小遣いで、ちょうど磯舟1艘を造る手間賃(材料持込)と同じだったそうです。

数字で見えますと、昭和48年度の高校進学率は、全国平均89.4%、全道84.0%、檜山管内68.3%、島内49.0%となっていました。当時、東京では96.9%、札幌では96.1%でしたので、極端な地域差が出てしまっています。進学先は、江差高34名、管内外公立高7名、函館市内公立高20名、私立高3名でした。また、当時の下宿代は江差高校寄宿舎13,400円、江差町内20,000~22,000円、函館市内25,000~27,000円ほどでした。

そもそも、奥尻町では高校設置の陳情運動を昭和43年より開始していましたが、道の方針や町の財政状況などにより見送られてきた経緯がありました。そして、同49年度は趣意書を広く町民へ配布し、説明会の開催や署名を集めるなどして、上埜賢町長と西本幸次郎教育委員長の連名で陳情書を提出しました。結果、翌50年4月より1間口(1学年1学級)の分校設置が決まり、初年度は43名が入学して、ここに奥尻島での全日制高校がスタートしたのです。

校舎は、49年度で閉校した、旧赤石小学校校舎を整備の上転用していました。開校後も、さらに独立校を目指して教室等を増築することとし、地元では「江差高等学校奥尻分校間口増促進期成会」を結成して陳情を続けた結果、52年度より奥尻高等学校として独立、学校規模も2間口(2学級)となって、生徒受入数も格段に増加しました。現在では1間口ですが、数年後には町立の中高一貫校として再スタートすることになっています。



独立開校した奥尻高等学校 昭和52年

### ☆奥尻高等学校年表☆

1974年12月	江差高校奥尻分校設置認可
1975年4月	開校式及び入学式挙行 男子25名、女子18名入学
1976年11月	校歌制定
1976年12月	校舎増築工事(教室、図書室他)
1977年4月	奥尻高等学校開校(独立)
1979年3月	体育館完成(現 町民センター)
1987年1月	新校舎完成(字赤石411-2)
1987年6月	創立12周年、開校10周年
1989年1月	プール完成
1991年4月	1学級減(1学年1間口)
1993年7月	南西沖地震津波で生徒亡くなる
1995年12月	校訓(創造、自律、実践)
1996年9月	開校20周年記念式典挙行
1997年4月	特例2間口校となる
1998年2月	檜山管内教育実践表彰受賞
2002年4月	1間口校となる
2007年10月	開校30周年記念式典挙行



奥高だより 第1号 1991年10月15日発行

### ☆奥高の思い出(内輪ネタ)☆

50代Aさん	4期生はおとなしかった。
50代Bさん	野球に打ち込んで初の一勝。
40代Cさん	太陽食堂によく行った。
40代Dさん	ファミリーパークでデート。
30代Eさん	〇〇の家がたまり場だった。
20代Fさん	マージャンばかり…。



若葉もえつつ赤石の  
丘に友らの集いきて  
理性の覚まし知を磨き  
希望の鐘を打ちならす  
お、お、  
奥尻奥尻わが母校  
朝な夕なに照り返し  
日本海の碧のごと  
心清らに育くまれ  
高き理想に胸燃やす  
お、お、  
奥尻奥尻わが母校  
風雪耐ふる樹のごと  
きびしき自然友として  
平和な郷を愛しつづ  
北の文化をうち建て  
お、お、  
奥尻奥尻わが母校



旧校舎全景 昭和55年頃



授業風景 昭和55年頃

村上義夫作詩、山中幹雄作曲、昭和51年11月25日制定の校歌は3番構成からなります。村上は檜山教育局指導主事、山中は札幌東高教諭でした。1番の「～鐘を打ちならす」、と2番の「朝な夕なに～」はともに奥尻小学校校歌のフレーズと共通しますので、参考にしたのかもかもしれません。

月刊 奥尻のつり 11月号

冬場の磯釣りシーズン真っ盛りです。序盤は港内や沖にもフグが残っていて、エサ取りされて不愉快な釣りがみられましたが、中盤以降はほとんど消えたようです。夏枯れの期間中、ほとんど釣り人が入っていなかった港や岩場では、シーズン初回から大物の便りが届いています。野名前～宮津間の北部方面ではやはりカジガが大型傾向にあり、奥尻港内、谷地～赤石間の湾内ではカレイが盛んに釣れています。他、東西海岸の岩場ではソイ、ハチガラ類が簡単に釣れています。見聞によると、今月はクロゾイ50cm、ハチガラ36.8cm、カジガ57.5cm、カレイ44.5cm、アブラコ47cm、ホッケ47.1cmと、続々大物が飛び出して、自己記録を更新したという話も聞こえてきます。12月中旬頃までシーズンは続くことでしょう。

昭和奥尻生活詩 23回

奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「詩集・海に生きる」より

泳光白ぐ飛海跳光何鯉沖  
いる波のびのの上る萬匹大  
で、立ぐ散水の上る光と群  
るるて泳いびにキラなく如  
鯉渦巻いてる光る上る  
群にいてる光る上る

鯉光る  
板谷トヨ

醸尻待定にるルフ道もグた  
し産ちではでのに家ーが、か  
まー遠す新しおしが奥決奥ね  
す吟しの酒よ披た書尻ま尻て  
。風くでとう露といーりのから  
ーな、し。目のたでま地ら募集  
をり来てがこ文すし酒集し  
小ます登年今と字。たのネて  
林すま場の後でを旭。モ川そ  
酒ねすす四な、モチのそい  
造。春る月さらちのそい  
で奥が予中れば！書名ン

地酒の名前決まる!



チョークアートの展示

しなたがなス発目なをトた町海  
たさだつ演、表をど写や。民洋十  
。んいて目バでひがし昭今文研一  
あたいがンはい初た和年化修月  
り関まみド、て登貴三は祭セ八  
が係しら演大い場重十、がン、九  
と者たれ奏正ましな年チ行タ、日  
う、。、な琴し、力代ヨわーれ奥  
ご町ご飲ど、た観ラの街クま尻、  
ざ民協声、コ。覧―街クま尻、  
いのが多―芸者写並アし日、  
まみい上様ラ能の真み！町

町民文化祭盛大に

11月に入って、釣りばかりしているのですが、私の竿は全て親父のおさがりです。型は古いですが時化には強い、つな塩梅で、根掛かりして強烈にしらせでも折れませんし、大物でも一気に引っ抜けます。強風の中でもあまり揺れません。ただ、硬い竿なので、糸を張っておかないとカレイのような微妙な弱いアタリが読み取れず、糸がふけてから気がつく場合も。

新糸之記録(編集後記)

うと島いがしはりあ島し十た  
掘全ま、て、まつ全た五、四月  
り体す毎い来てして体日奥月  
起の。年る島た。の今で尻より  
こ観他下計者。九入年冬島津開  
し光の降算の過六りは期津館し  
が名施傾に約去六込、休波館し  
必所設向な四四六み観館館して  
要の含とり割年人数光とがて  
で再めなまが間に減客な十い  
し整てつすす入で止少等り一ま  
よ備、て館まものま月し

奥尻島津波館営業終了



塵芥回収車 昭和45年